こんなところに仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

教授

戦場のメリークリスマスの楽曲を担当された坂本龍一氏は「教授」と呼ばれていました。この「教授」という言葉は元々仏教用語なのです。

仏教では出家をする際に、男性の出家者であるならば二五〇の戒律が授けられます。その時に十人の証明が必要でした。三師七証といいます。三師の役割は、戒和上…出家して十年以上経過した者。新人比丘の直接の指導者となる。　羯磨阿闍梨…受戒の儀式のときに宣言や承認を求める羯磨文を読む。　教授阿闍梨…出家して五年以上の経過した者。受戒の儀式の際の作法を教えたり、受戒をする資格があるか尋問をする。　です。そのほかに七人の比丘の証明を受けて出家者となります。日本でもこのような形の出家の形をとっていましたが、日本天台宗の開祖最澄が、自分の為だけではない出家の形である大乗の出家の形を考え、苦労の末、大乗戒壇が認可されます。ここから、鎌倉新仏教の祖師たちが誕生します。

燕も一生懸命
蛇も一生懸命
ナ吾孔

教信沙弥

ですのでご紹介させていただきます。

教信沙弥は、奈良時代末期から平安時代初期の方です。若い頃は奈良で仏教を学びました。その中で、念仏の教えに導かれ、奈良では、念仏に集中できないと播磨の加古で隠遁生活を始めます。庵を建て垣を作り、西の方には垣を作らず、夕日を見ては、南無阿弥陀仏を称える生活をしていました。生計は田畑を手伝って、御礼に念仏を称えてもらう。街道を往来する旅人の荷物を運び、御礼に念仏を称えてもらう、という生活であったため、極貧生活であったようです。生活は貧しかったのですが、心は阿弥陀仏のお慈悲でいっぱいでありましたので、豊かでした。妻もいて、子もいたそうです。

親鸞聖人は、このような生活を送っていた教信沙弥を尊敬していました。越後へ流罪になられた時に、聖人は言われました。「私は、僧籍を剥奪されて、越後に流罪となりました。僧侶ではなく、俗人の証として姓を『禿』とします。しかし、念仏に支えられた生き方をしていますので、僧でもなく俗でもない非僧非俗になります。」と。

仏教用語ではないのですが、親鸞聖人の生き方の参考になった方